

令和6年度 第1回名取市子ども読書活動推進協議会会議概要記録

○日時	令和7年3月25日(火) 10時～11時45分
○場所	仙台法務局名取出張所2階 会議室4
○出席者(9名)	松本 真奈美委員、佐藤 陽子委員、本望 初枝委員、尾形 理恵委員、 永野 陽子委員、菅井 みゆき委員、金野 稔子委員、齋藤 勇介委員、 栗山 幸子委員
○欠席者(1名)	石川 寛之委員
○事務局出席者	教育長 瀧澤信雄 教育部長 齋藤 正光 生涯学習課長 佐藤 徹也 生涯学習課長補佐兼生涯学習・青少年係長 菊地栄一 生涯学習課主事 益子 未桜 図書館長 加藤 孔敬 図書館司書 古瀬さおり
○傍聴人	なし

(会議概要)

開会に先立ち委嘱状を交付。名簿順に名前を読み上げ起立、一人ずつ委嘱状を交付した。

1 開 会

進行:菊地補佐

2 挨 拶瀧澤教育長

忙しい中お集まりいただき感謝する。常日頃から図書館の運営、子供に関わる様々な事業等にご協力ご支援いただき感謝申し上げます。昨日の朝刊にも図書館が紹介されていたが、年間来館者30万人を達成し、記念のセレモニーを行った。名取市在住の親子連れが30万人目だった。

名取市では、第二次子ども読書活動推進計画を作成したのが令和3年8月であるが、これを見直して新たな計画を策定する時期に入っている。今日はアンケート調査の結果などを報告させていただく。これから名取市で子どもたちの読書活動を推進していくために、皆様から忌憚のないご意見を頂戴し取り組んでいきたい。本日はよろしくお願いしたい。

会議成立の確認

名取市子ども読書活動推進協議会設置要綱第6条第2項により、委員過半数の出席を確認し会議成立を宣言。

会議公開の確認

名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により、公開の対象となる旨を告げる。

傍聴席を設けていたが、本日の傍聴者はなし。非公開の議事は予定していないが、非開示情報が含まれる内容となった場合、会議に諮り決定していくことを告げた。

3 議 事

現委員の初回会議のため、会長及び副会長の決定まで教育長が仮議長となり進行。

瀧澤教育長

本会の設置要綱第5条に推進協議会の会長及び副会長は委員の中から互選により定めるということであるがいかがか。

事務局案の声あり。

事務局(益子)

事務局案として、会長に松本委員、副会長に尾形委員にお願いしたい旨を提案。

瀧澤教育長

ただいま事務局案が示されたが、いかがか。

一同拍手により提案どおり決定。

事務局(菊地補佐)

会長に松本真奈美委員、副会長に尾形理恵委員ということでお願いしたい。お二人から挨拶を頂戴したい。

松本会長

尚絅学院大学の松本である。普段、大学生と接している。統計的な調査をした訳ではないが、学生たちの様子を見てみると、読書が好きな学生、子供の頃から読書に親しんできた学生には情緒が安定している、不安な状況にも耐える力があり、他の人にも優しくできるような感触を得ている。子供の頃からの読書習慣は人格形成にとって大事なことであり、というのは間違いのないことだと思う。この度、名取市子ども読書活動推進協議会の委員に任命され、会長もお受けすることになった。名取市の子供たちの未来のためにそれぞれの視点から知恵を出し合っていければいいなと思っている。よろしくをお願いしたい。

尾形副会長

あらためて、副会長ということで、できることをやっていければと思う。個人的な話になるが、尚絅学院大学を卒業した娘が保育士として東京の保育園に勤めることになった。就職にあたって1番の決め手は、日本一絵本を所蔵している会社を決めたということで、絵本がある環境がとても大切だということ、小さいころから絵本がいっぱいある中で本に親しみながらきたので、就職の決め手がそういうことで決めてくれたので、私自身とてもうれしく思う。大事なものはこれからで、その経験と意見を小さな子供たちに伝えてもらいたいと思う。

菊地補佐

要項第6条の規定により松本会長に議長をお願いしたい。

(1) 令和6年度名取市子ども読書活動に関するアンケート調査結果について

松本会長

(1) 令和6年度名取市子ども読書活動に関するアンケート調査結果について事務局より説明をお願いしたい。

→資料1に基づき事務局益子より説明。

松本会長

事務局から説明があったが、委員から一言ずつご意見等をお願いしたい。

佐藤委員

質問2の本を読んだ理由として、学校で朝読書の時間があったからとあるが、名取一中に限ってかもしれないが、現実的なところでは毎日10分というのは取れていない。率直に言うと、朝読書の時間を大切にしていななと感じている。アンケート結果を見るとそうなのかと感じた。

本望委員

子供の時からの読書習慣が身に付いている子は情緒安定しているとお話があったが、小学生の子供たちをみて、思いやる気持ちや感情表現の仕方が子供たちによってかなり違う。家庭において、読書の機会に触れてい

るかどうかにもよると思う。子供たちへ本の読み聞かせなどで返せたらという思いでボランティアをしている。学校での朝読書の時間は大事である。高学年になるにつれ、読書の時間が減っていつてしまうのが現実である。たくさん本に触れてもらうのは小さい時が勝負かなと思う。

尾形委員

嬉しいと思ったのは、質問2の「本を読むことが好きだから」の回答にたくさんのお子さんが好きだという意思表示をされていたのがいいことだと思った。質問3で「読みたいと思わなかった」という子供たちが結構いるのだなということに驚いた。本の良さを知るまでは「読みたい」という欲求には至らないと思うので、どのようにしたらいいのか。自分の好きなことに熱中しているのも子供にとっては大切な時間だと思うが、子供たちの興味関心があるものに関わるような本が目につくところにあるような環境を多く作ってあげられればいいのかと思う。質問9に関して、小学生のスマホ所有が減ったのはなぜなのか。

事務局(益子)

明確な理由は掴めていないが、令和5年度はタブレット PC も含めて調査していたが、今回は県と合わせるため、スマートフォンに特化した質問設定としていることが要因と考えられる。

永野委員

学校で本を読む時間があるということが環境整備の中では大事だと感じた。質問2の結果にも表れていると思った。質問3の「読みたいと思わなかった」が何名かいるが、仕事柄思うのは、この中にはもしかすると発達に障害のあるお子さんで、ここまでたどり着けないお子さんがいるのかなと感じた。そういった子供たちも増えているので病気の有無ではなく、色々な子供たちがどうしたら本に触れあえるのかを考えるのが今後の課題になるのかなと感じた。小さい子供のうちに読み聞かせの機会があると思うが、発達に障害があったりすると、長時間座っていられなかったり集中できなかったりすると、親の方も疲れてしまい、大事なことで分かっていても置かれた環境で、できることを子供のためにしていく必要があると思うが、一概に本だけとは難しいと感じた。

電子書籍の質問のところで、本を読むのが紙でも電子でも媒体が何でもいいのかであれば、機械としてあった方がいいのか、紙の本がいいのか個人的に興味がある。本を推進していくという時に、興味のないことに子供は取組にくいので、なぜ本がとてもしいいのかというところを伝えていかなければならないと思う。

本といっても、マンガや小説などあるが、アンケートの本の捉え方というのはどのようなものなのか。

事務局(益子)

このアンケートの本というのは、読み物である小説や絵本を考えており、アンケートの質問のところに説明を載せていた。また、紙の本だけではなくスマートフォン、タブレット、パソコン画面でも読むものも読書と考えて回答いただいている。但し、含めないものとして教科書や学習参考書、マンガ、雑誌、新聞、ゲームの攻略本などは、このアンケートでは読書に入れないということで回答いただいている。

菅井委員

私は令和4年ぐらいに児童センターに勤めており、その際に委員をさせていただいたが、その頃のアンケート調査の項目から新規に加わっているというところで、年度ごとに新しい情報を取り入れながら、子供たちの読書推進に向けて、アンケートの内容を変えているのだなと調査結果を見て感じた。質問2の「本を読むことが好きだから」の項目が本年度新たに加わったということで、この数値をみて増えてきている結果を見てうれしく思った。小中学校の方では朝読書の取組があることで、子供たちが本に触れる機会が持てているというところは良いと思う。保育所としては、両親がお仕事をしているということで朝から夕方までお子さんを預かっているが、本望委員が言ったように、小さい時に本に触れるということが、とても大切になってくるし、小さい時期に絵本に触れることで子供たちの世界が広がったり、本に対する興味だったりというところでは、小さい頃の積み重ねやどんな絵本に触れるかによって、大きくなってからもっと本に興味を持ったりという機会になったりすると思う。保育所で過ごしている幼少期というのは、本に触れるとても重要な時期だと実感している。読みたいと思わなかったという数値が

増えているということは課題であると思う。家で本を読むということは、保護者の方が仕事をしながらだと難しさもあると思うので、各施設で子供たちに本に触れる機会をどのように確保したりするのが今後の課題だと思う。

金野委員

質問2の「本を読むことが好きだから」というお子さんが、30%近くいるということの良い結果を知れた。児童センターの方でも、先程の本の捉え方、定義はどういうことですかという質問の中で、書籍だったり、絵本だったりという事ではあるが、小学生がマンガを読んで息抜きをしたり、高学年になると宿題の中で本を通して自分の興味を深めていくことがあったりする。先程、人格形成の話が何度も出ているが、本を通して色々な想像力を膨らませることによって、人の心、相手の心が分かるということに繋がっている感じがする。

齋藤委員

「本を読むことが好きだから」の回答が30%いるといったところは、これだけの子供たちが本が好きだと価値を見出して時間を使っているのだなと感じた。この他の7割の子たちが、いかに主体的に本を読むことが楽しいと実感できるようなアプローチをこの社会の中でどのように伝えていくかが大切だと思った。先程、菅井先生が保育所の中で絵本の読み聞かせの話がされたが、保育所の幼少期の子供たちは絵本の時間を楽しみにしている。保育所の子供たちに気軽に絵本が好きかどうかを聞くと、9割以上の子供たちが好きだと思う。そこから小学生、中学生に行くにつれて読書率が下がってきているといったところが、どのような状況があるのかをひも解く必要があるのかなと思う。絵本の楽しさといったところが幼少期にしっかり身に付いた子供たちがさらに持ち続けてもらえるような環境を見出していかなければならないと感じる。そのうえで時間がなくて読めないと言いながら、スマホの時間が3時間以上という中学生が45.5%という結果で、スマホの活用順位が読書より優先されていると思う。今の世の中、スマホが必須なツールであると思うので、その価値も理解しながら、今までやってきたアプローチと違う読書の価値を伝えることが必要であると思う。主体的に子供たちが読書を選択していくというのを模索していきたいと思う。児童センターでは違う目的で読書に触れる時間を設けている。「飴っ子図書館」というもので、誤飲などの危険なことは注意しながら飴をなめている時間は読書をしてもらうようにしています。飴を目当てに来るが、本を読み始めると飴がなくなってもしばらくの間読書を楽しんでいる姿も見られる。違う理由でもいいので、自分から読書に参加してみようという仕掛けを作って結果として読書は楽しいと繋がるような視点が今後必要になってくるのではないかと思った。

栗山委員

質問7のところで、学校の図書館から借りるというのが58.2%ということで、子供が本に触れる機会が学校にあるというのが数字からも分かるので、学校の図書館に行く機会があるというのは、良いきっかけになるのではと思った。COCOILL(ここいる)では、絵本コーナーがあるが、言葉のわからない赤ちゃんでも、オノマトペなのか、グーグーとかジャージャーという絵本を読むと、赤ちゃんが一斉に絵本に集中する。それを見ていて、6か月の赤ちゃんでも分かるのだとおはなし会でも何度か経験しているので、そういう機会を赤ちゃんの頃から持つのは大事だなと思う。お母さんからどのような本を読んであげたらよいか相談されたりするので、それぞれの年齢にあった本があるので、図書館からもらう「えほんのポケット」を紹介している。COCOILL(ここいる)は0歳児から2歳ぐらいが中心となるが、一番大事な愛着形成の時期にあたることで、親と子の絆を深めるために愛着形成のツールとして絵本はとても重要ではないかと思う。

松本会長

アンケートの数字から、様々な現場で本と接する時間を取ることの重要性、多様な子供たちへの対応、「本を読むことが好きだから」という子供の意見が30%という希望を持てる数字だけでも、年齢が上がるにつれて読書の価値を伝えていくことが課題であり、主体的な読書習慣をどう持たせていくか等、様々な課題が出されたかと思う。

一方でその答えにあたるようなそれぞれの現場での取り組みの一端も披露していただいた。

他にご意見等いかがか。なければ、(1)令和 6 年度名取市子ども読書活動に関するアンケート調査結果については原案のとおり承認とする。

(2)名取市子ども読書活動推進計画に関する取組状況について

続いて、(2)名取市子ども読書活動推進計画に関する取組状況についてご説明をお願いしたい。

→資料2に基づき事務局益子より説明。

松本会長

事務局から説明があったが、委員から一言ずつご意見等をお願いしたい。

栗山委員

学校や施設でたくさん取り組んでいただいていると感心した。中学校になると時間が取れなくなってくる現実が感じられた。

齋藤委員

赤字のところが新たな取り組みというところで、昨年度も充実した取り組みを考えているというのが見えていたが、さらにそこからブラッシュアップをかける形でこうした取り組みがまた新たに増えてきて素晴らしい取り組みだと思った。特に 13 ページの図書館における子ども読書環境の整備の中で、公民館主催のお仕事体験で小学高学年のおすすめポップの展示など、子供たち同士の視点でお互いに情報交換をしたり、楽しめるものになっていると思う。こういった取り組みが継続して広がっていくといいなと思った。とても充実していると感じた。

金野委員

相互台小学校のところで、家読(うちどく)したものをここまで丁寧に活用しているのに感心した。9 ページのところで閑上公民館まつりで出張貸し出しを行ったということで、こういった取り組みが良いと感じた。

菅井委員

皆さんが様々な取組をされていて保育所としても頑張らなければならないと感じた。昨年度から 3 公立保育所でおやつと絵本のコラボに取り組んでいる。子供たちに食を通して絵本にも興味を持ってもらい、どちらにも効果的な取り組みができていて継続的に行っているところである。

永野委員

不二が丘小学校で 12 ページのマルチメディアデイズ図書を取り入れたということで、とてもいいことだと思った。色々な媒体が増えてきているので、子供に合わせた教育だったり、図書を提供されると子供の心の発達にも良いのではないかと感じた。

尾形委員

沢山の取組が行われているということで、なんて子供たちは幸せなんだろうと思った。少し前にみどり台中学校にお邪魔する機会があり、その時に図書館に寄らせてもらったが、図書館の入口に図書委員さんの本の紹介のポップが飾っており、子供の目線で選んだものが子供の文章で紹介されているのがとてもいいなと思った。個人的に興味を持ったのが、食と絵本のコラボでどんなものを食べたのかサラダの他にどんなものがあったのか知りたいなと思った。

菅井委員

白くまちゃんのホットケーキ、日曜日のドーナツ、ワンピースの蒸しパンなどか。

尾形委員

それをできた子供たちがうらやましいと思った。子供たちにとって大好きな絵本と食べるという幸せな時間がセットになって思い出として残ることは素敵な時間だと思った。様々な角度からアプローチしていくことの大切さと、

色々なところが連携していくことでできるのだと感じた。

本望委員

どの学校も保育所も幼稚園も、みんな素晴らしいことを実施していると思った。5 ページに、相互台小アニメーションの実施とあるが、どのようなことなのか。それと、子供たちに読み聞かせをするときに静かに話を聞かせると書いてあるが、皆さんがどう思われるかわからないが、静かにというのはどういうことなのか、自分の体験だと静かすぎるのも良くない。子供たちが興味を持っているのか、興味がなくて静かにしているのかわからないし、興味ある子は何かにしていても聞いているから、この静かだけの判断は危ないと思った。質問だが、マンガ本はアンケートから除外とのことだが、うちの孫は伝記本をマンガで読んでいるが、マンガでは読書の興味がダメといっているのかそういうのはどうなのかと思った。アンケートにあった他のことに興味のある子の本を読まないことを否定的に捉えないでほしいと思う。本を読まないことを認めたうえで本に興味を持ってもらうことがいいのかなと思う。

松本会長

いくつかご質問いただいた。資料5 ページ相互台公民館のアニメーションとはいかなるものか、静かに話を聴かせるとはどういうものなのか、読書は大事だがマンガを読むことについて一概に退くべきなのかといったこと、事務局のみならず、委員の皆様方のご意見もお聞きたい。

事務局(益子)

アニメーションは読書教育のプログラムの一つになっている。本を読む楽しさを体験し、読書の力を伸ばすことを目的とするものである。一例であるが、絵だけを見てお話を作ってもらって読み聞かせの後にその内容のクイズを出し合ったりして本の内容を深めていくような教育プログラムの1つのようなものである。

齋藤委員

入口としてはマンガもありなのではないかと個人的には思う。教育的効果とかの違いはあると思うが、語彙に触れる中では幼少期に絵本があるのと同じように、内容や種類が違うが絵が付いていることによって入りやすいと思う。

佐藤委員

本校の司書さんや図書委員長が、時間のない生徒たちにアプローチするのに動いてくれている。入試前には入試対策の本を手前に置いたり、職業体験の前には色々な仕事の本を置いたり、タイムリーに出してくれたりする。疑問というか知りたいと思っていることだが、授業で意味調べをさせる時に、近年 iPad で調べるのがあたり前になって簡単に検索して意味が分かる。そうするとすぐに忘れてしまうというのを実感していて、小学校の時に紙で辞書引きをやっている経験があって、紙で調べると覚えるという感覚を持っている。楽だけが残らないものを取るか、手間だけど覚える辞書引きをするかというジレンマを感じていて、そういう実証実験はあるのか知りたい。本校では全校生徒に夏休みに読書感想文を書かせているが、それを機会にいい読書体験をする生徒もいれば、中には ChatGPT(チャット GPT)を使って書いてくる生徒が学年で 2、3 人はいた。これが段々進んでいくと、教員が読んでいて生徒が書いた感想か判別できない時代もくるのではないかと、大変な時代に子供たちは大人になっていくのだなと思った。そういうものが見分けられるのを求められているのだなと感じている。

松本会長

紙媒体で調べた方が覚えることは実証実験のデータがどれくらいあるかはうる覚えだが、体を動かしながら調べたり考えたりすることの方が定着しやすいということは、東北大学の先生や東京大学でも酒井 邦嘉先生が研究に着手していると聞いている。他にご質問ご意見いかがか。

瀧澤教育長

わからない言葉の意味を調べるときに、辞書かipadかということで、数年前にスウェーデンで出た本だと思うが、「スマホ脳」という本の中に、学生を対象にした実験で紙で調べた学生のグループとデジタルで調べたグループでいつまで記憶に残っているかというものがあつた。圧倒的に紙で調べた学生グループの方が覚えている結果

が出ていたと思う。マンガの話も出たが、教育委員との話し合いの中でも、読書でマンガの議論があった。私はマンガもいいと思う。実際に学校の図書館にもマンガになっている歴史や世界史、偉人本などがある。マンガが本に触れるきっかけになるのはいいことだと思う。日本語を子供たちに教えるときに、日本語で書かれた文章から色々なことがイメージできる力をつけてあげなければならないと思う。その情景が文章からイメージできるか、登場人物の気持ちを読み取れるか、絵本は当然まだ読解力の育っていないお子さんにとっては助けになるのでいいが、マンガ本はセリフもあるが情景などは絵で出てくる。もう一方で、文章から情景や気持ちを読み取る能力や力というのは、色々な場面で育てていかなければならないのではないかなと思う。両方あっていいのではないかな。

松本会長

文字によるメディア、電子媒体いろいろな媒体があるが、そのメリットデメリットをよく見極めて、それぞれを使っていくことが大事だと学ばせてもらった。

名取市子ども読書活動推進計画に関する取組状況について原案のとおり承認してよろしいか。

それでは原案のとおり承認することに決定する。

(4) その他

(4) その他について事務局からお願いしたい。

加藤館長

4月27日土曜日に図書館まつりを開催する。委員の皆様も時間があればお越し願いたい。

佐藤課長

名取市の取り組みとして、令和 7 年度からすくパピ事業ということで子育て支援の事業を展開するが、内容としては、出生時及び3歳6ヶ月に絵本を贈呈し、親子で本に親しむ機会を提供して親子の心の触れ合いと子供の豊かな感性を育む読書活動と子育て家庭を支援するものである。

松本会長

本日の議事は以上とする。活発な意見、円滑な議事運営の協力に感謝する。

事務局(菊地補佐)

令和 6 年度第 1 回名取市子ども読書活動推進協議会の終了を宣言。

以上